

教会では「主の祈り」を唱和していますが、これについて教えてください。

教会ではいろいろな祈祷文があり、教派によっても種々存在しますが、「主の祈り」はイエスが弟子たちに教えられた唯一の祈祷文でほとんどの教派で正当な祈祷文として認められており、とても大切な祈祷文です。西神戸教会ではいずれの主日礼拝においてもこの「主の祈り」(文語訳)を唱和します。

「主の祈り」に関しては、新約聖書マタイによる福音書 6 章 9-13 節と同ルカによる福音書 11 章 2-4 節と二つの福音書に記されています。日本語ではほとんど同じなのですが、ギリシャ語原文では異なる部分があります。それは「・・・日毎の糧を今日も与えたまえ・・・」の部分ですが、マタイによる福音書は一時的な動作を命令するアオリスト命令形が用いられており、「一回だけ」与えたまえ、すなわち、せっぱつまって、とにかく、今日生きるために必要な糧を与えてください、となっているのに対して、ルカによる福音書では継続的あるいは反復的動作を命令する現在命令形が用いられています。つまり、毎日毎日途絶えることなく、与えたまえ、となっており、ニュアンスがかなり異なります。

上記動詞に関する異なる部分の原文表記--太字部分

(ネストレ・アーラント 28 版 なお、七十人訳も同じです。)

マタイによる福音書 6 章 11 節

τὸν ἄρτον ἡμῶν τὸν ἐπιούσιον **δός** ἡμῖν σήμερον. (アオリスト命令形)

ルカによる福音書 11 章 3 節

τὸν ἄρτον ἡμῶν τὸν ἐπιούσιον **δίδου** ἡμῖν τὸ καθ' ἡμέραν. (現在命令形)

新共同訳全文マタイによる福音書 6 章 9~13 節

「天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。

御国が来ますように。御心が行われますように、天におけるように地の上にも。

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

わたしたちの負い目を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を赦しましたように。

わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。」

新共同訳全文ルカによる福音書 11 章 2~4 節

「父よ、御名が崇められますように。御国が来ますように。

わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。

わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから。わたしたちを誘惑に遭わせないでください。」

「主の祈り」(文語訳)

天にまします我らの父よ

願わくは

み名をあげさせたまえ

み国を来たさせたまえ

み心の天に成る如く地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦す如く我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに遭わせず悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは限りなく汝のものなればなり

以上